地域経営エコシステムで支える過疎地域の公共交通構築事業

井田いきいきタクシー運営協議会　企業組合井田屋　大田市政策企画部まちづくり定住課　大田市井田まちづくりセンター
株式会社バイタルリード　藤原章正（広島大学）　谷本圭志（鳥取大学）

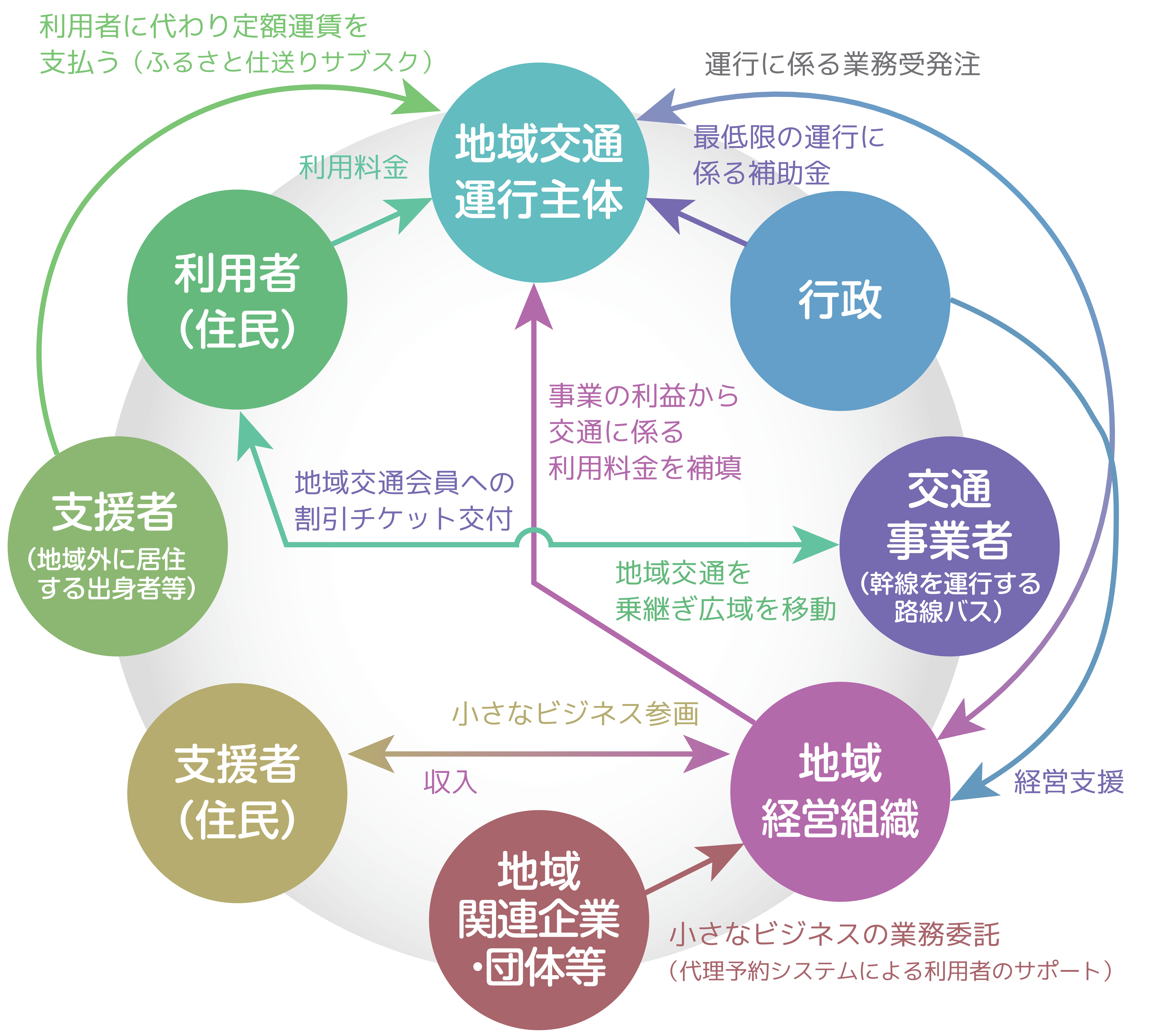
事業フィールド（島根県大田市温泉津町井田地区）

- ●人口500人未満、高齢化率60％
- ●人口減少と高齢化の進行が顕著な山間集落
- ●大田市生活バス（自家用有償旅客運送）や4条路線バスも運行しているが、クルマを自由に使えない高齢者等の生活を担うためのサービス水準に無い状況

背景・事業の目的

- ●人口減少が続く過疎地域において、路線バスや乗合タクシーといった「乗合サービス」の運行効率は非常に低い状況となっている
- ●乗合サービスは、自治体による運行あるいは自治体からの補助による運行が多くを占めるが、人口減少が進み利用者も減少する中で、行政の負担額は増える一方である
- ●島根県大田市井田地区では、定額乗合タクシーを導入し、地域交通のしくみづくりを行ってきたが、過疎地域の交通は、「もはや交通の問題は交通に閉じて解決できない」状況にある
- ●本事業では、「サービス改善による利用増」「効率化を図る」ことより一歩進んだ「地域経営エコシステム」という交通の周辺も戦略的に内部化して「支える」しくみを構築した

「地域経営エコシステム」　地域全体の生態系の中で地域交通を守る仕組み



地域交通運行主体	・地域交通の安定的運営
行政	・健康寿命延伸、地域コミュニティの存続 ・取組が近隣地域へ影響をもたらし、市全体の活性化へ
交通事業者（幹線を運行する路線バス）	・いきいきタクシーがラストワンマイルを補完することで他の公共交通の利用を促進
地域経営組織	・事業のさらなる進捗 ・新規事業創出
地域関連企業・団体等	・安定的な業務発注 ・地域資源を活かした新製品の開発
支援者（住民）	・楽しく健康に住み続けられる地域 ・将来の移動手段の不安が解消
支援者（地域外に居住する出身者等）	・両親への経済的な支援だけでなく、安心した暮らしが届けられる ・高齢ドライバーの事故防止や免許返納に向けた一歩に
利用者（住民）	・気軽に外出できる環境がある ・住民同士の交流機会の増加により、心身の健康増進効果や生活満足度が向上

井田いきいきタクシー（地域交通・自家用有償旅客運行）

- ・井田地区内と生活機能拠点を結ぶ地域交通
- ・月￥3,300で乗り放題の「定額制乗合タクシー」
- ・利用者は、70～80歳代が中心だが、小学生・高校生など60歳代未満の会員も存在

企業組合井田屋（地域経営組織）

地域住民による営利事業
- ・特産品の加工、開発、販売事業
- ・作業受託事業（小さなビジネス）
- ・地域食堂の運営支援事業
- ・視察受入れ事業

ふるさと仕送りサブスク（支援者）

- ・地域外居住の子どもや孫世代が、地域内在住の両親や祖父母のいきいきタクシー月額利用料を負担する「ふるさと仕送りサブスク」サービス
- ・利用状況のお知らせや、通常運賃＋αを支払えば、数か月に1度返礼品が届くサービスを展開
- ・両親や祖父母へ買い物や通院・楽しみのお出かけなど、安心した暮らしを届け、「交通」からふるさとを応援できる仕組み

私達に替わって地域に住む人達の足となってくださりありがたく思います

大変な事も多いと思いますが、ぜひ次世代に引き継いでいっていただきたいです

★支援者（地域外に居住する出身者等）からの声

代理予約システム（地域関連企業・団体等）

- ・スマホを持たない利用者に代わって、地域内の医院や行政機関などの移動目的地で代理予約できる仕組み
- ・地域内商店、飲食店等で次回来店時の予約とともに移動の予約を入れてもらうなど、来店機会を促進するツールとしての活用を目指す

地域交通会員を対象とした路線バス割引チケット（交通事業者）

- ・地域交通会員を対象に、地区内幹線を運行する路線バスの割引チケットを配布（※R4年の実証実験期間のみ）
- ・地域交通会員は、非会員と比較して路線バスやJRを乗り継いで広域に移動する場合も多く、地域交通があることで他公共交通機関へも良い影響を与えている

効果

- ●約6割の利用者の外出回数が増加した（増加回数4.2回/月）
- ●乗り放題サービスによって、地域イベントや温泉入湯、友人宅訪問等の楽しみの移動が増加し、地域での生活満足度や心身の健康状態が向上した
- ●井田いきいきタクシーの運行継続により、免許返納者が増加した
- ●井田いきいきタクシー利用者の路線バスやJR等の幹線公共交通利用率は、非利用者よりも高くなった
- ●定額制の仕組みにより、利用者の支払額が従来よりも高くなり、公共交通としての事業性が向上した
- ●住民同士の交流も活発になり、いきいきタクシーは社会や地域コミュニティと住民をつなぐ井田地域版ソーシャルネットワークサービスとして確立
- ★行政補助は最小限として、自分たちの交通として自立的に持続可能なしくみを構築している

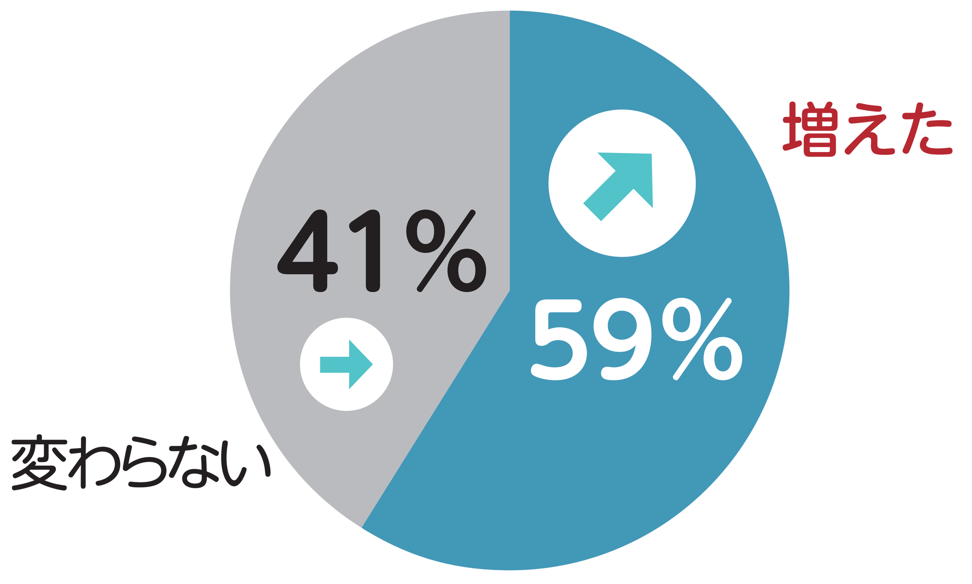


図1 外出回数の変化

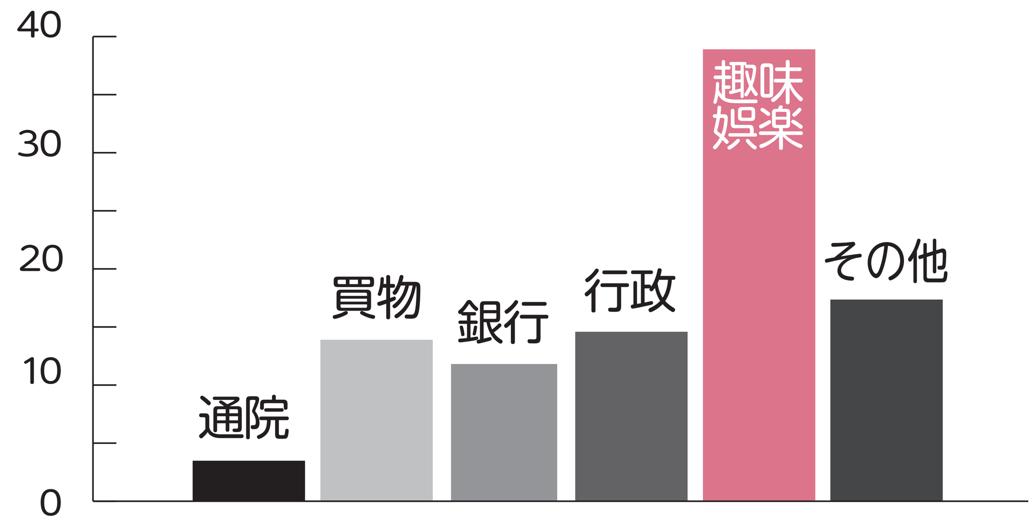


図2 利用目的

井田地区の声

■いきいきタクシー会員の声
■井田地域住民の声

身体が動くうちはできるだけ活動に協力したいです。土日に参加できる活動があれば参加してみたいです。

他地域に住む知人から、いきいきタクシーがあって羨ましいと言われます。

超過疎地域になってしまった井田地区で、運営は大変だと思いますが、高齢者にとっては明るい希望の火が灯った思いです。

温泉津中心部に同級生がいて、いきいきタクシーで会いに行きます。一緒に温泉に入って、お茶をして帰ることが楽しく、元気になります。昔話をしながら、今こうしてまた会えるようになるとは思わなかったねと話しています。

天候が悪い日は外出するのも億劫になりますが、いきいきタクシーがあるからこそ外に出てだれかとお話しに行こうと思えます。

家族にお願いしなくても気軽に外出できるようになりました。

いきいきタクシーの車内で数年ぶりに会う同級生と乗合いました。おしゃべりしながら移動できたのがとても楽しかったです。

いろいろな立場の方々の意見を吸い上げていただき、なくてはならない組織にしてほしい。

外出する場所があり、地域のみなさんと顔を合わせてお話しする場があるのでそれだけで気分が晴れます。

地域のために仲間を増やして持続してほしいです。

地域経営エコシステム構築までの道のり

井田いきいきタクシーの実証運行開始と並行して、住民による「持続可能な地域づくり」の取組が推進

井田いきいきプロジェクト発足（2019年9月）

井田地域ビジョン完成（2021年3月）

スローガン
子どもからお年寄りまで
健康で楽しく住み続けられる
ふるさと井田

企業組合井田屋が設立（2022年1月）

主な取組

「特産品の加工、開発、販売の事業」
焼き肉のタレの開発・製造・販売
（道の駅や地域の文化祭、WEBで販売）

「作業受託事業」
島根県内の中小企業から軽作業を受託
制作した商品は完売

自家用有償運送への切り替え（2022年4月）

「地域の足は自分たちで守る」
という意識がさらに向上

9　2019　2020　3　2021　1　2022　4

WS開催

みんなで具体案を話し合い、特産品開発にチャレンジ
誇れる地域資源や人材の豊富さに気づく
回を重ねるごとに、**地域の資源を活かした「持続可能な地域づくり」の必要性を認識**

集落支援員配置

「小さなビジネス」全般のお手伝い
（事務処理・企画・住民との調整等）
が可能になり、より活発な活動が
可能に

共創モデル事業に採択

「ふるさと仕送りサブスク」
「代理予約システム」などの
導入により施策の高度化を
はかる

まとめ

- ●交通の構築だけでなく、**並行して地域経済活動を行うことで地域交流が活性化**
- ●**「自由に移動できる環境」と「住民同士が交流できる機会」が意識や行動、生活満足度によい影響を与えた**
- ●**交通事業者・利用者・行政といった限られた関係者で地域交通を支援するのではなく、地域に関わる多様なプレーヤーと協働で地域の活動を「つなぎ」、「支援者を増やす」ことが重要である**